

第15回日本実存療法学会 開催のご案内

御挨拶

第15回日本実存療法学会会長
慶應義塾大学看護医療学部
教授 加藤 眞三

第15回日本実存療法学会の会長を務めることになりました。会員皆様のご協力の下に実りある会にしたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

私は本来消化器内科学、特に肝臓病を専門とする臨床の内科医師であり、実存療法の専門家でもなく、その知識や技術を十分身に付けているものではありません。しかし、全人的な医療をめざすという文脈の中で、身体、社会、精神に加えて実存的なアプローチが必要だろうと考えています。

専門医は専門医としての守備範囲を守ろうとし、実存的な問題にまでは興味を持ちにくいものです。しかし、専門医が接する患者こそ、死に直面する病気や治りにくい難病をかかえ、より深い実存的問題に直面しています。

また、最近インターネット上などでも医療情報の公開が進んでいますが、医療情報の提供はインテリクチャルペインを減らすと同時に、スピリチュアルペインをもたらすことに留意が必要です。実存的な問題へのアプローチに目をつぶったまま、医療の専門分化や情報提供がすすむことは、患者により深刻な問題をもたらす可能性があります。そして、医療崩壊が叫ばれる中、医療者はますます多忙になり、実存的問題などにはかまっていられないという空気があります。

そのような背景の中、今回の学会を開催するに当たり、私は「患者のグループワーク」をテーマにしたいと考えました。医療者と患者の個人間のコミュニケーションにより患者の個人内のコミュニケーションを促すことが、実存療法の本道ですが、患者同士の会話の中にも実存療法に近い効果がみられ、そのようなシステムを持ち込むことが今後の医療に有用ではないかと考えています。会員の皆さま、そして非会員で関心をお持ちの方の参加と活発な討議を期待します。

- 会 期：2009年3月14日（土） 10:00～16:30
- 会 場：慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎内2階202教室
（東京都新宿区信濃町35 ※JR「信濃町」駅下車、徒歩約1分）
- 主 催：第15回日本実存療法学会 会長 加藤眞三
- 後 援：WHO（世界保健機構）
- 参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円 学生無料
- テーマ：グループワークと実存療法
- プログラム（予定）
 - 会長講演 「肝臓病患者への情報提供とグループワーク」
慶應義塾大学看護医療学部教授 加藤眞三
 - 特別講演 「バリエーショングループワークと実存分析」
浜松医科大学付属病院心療内科科長 永田勝太郎
 - ワークショップ 13:00～
 - 「乳がん患者におけるグループ療法」 東海大学精神科教授 保坂 隆
 - 「アルコール依存症者の自助グループ活動とスピリチュアルティ」
宗教情報センター研究員 葛西賢太
 - 「喘息患者の患者による患者指導」 半蔵門病院副院長 灰田美知子 など

●第15回日本実存療法学会 お問い合わせ先●

慶應義塾大学看護医療学部内

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 Tel:03-5363-3731 Fax:03-5363-2039

E-mail: katos@sfc.keio.ac.jp